

# 抜粋版

## 第1回富山市有機農業推進協議会次第

日時：令和7年5月22日（木）10時から  
場所：富山市営農サポートセンター会議室

1 開 会

2 委員紹介（事務局紹介）

3 令和6年度の取組み内容について ..... 資料1

4 令和7年度の取組みについて ..... 資料2

5 意見交換

6 そ の 他

## 資料1 令和6年度の取り組み状況

年度	月	日	内容	備考
令和6年	4	22	みどりの食料システム戦略推進事業補助金割当内示	7,200千円
		22	補助金交付申請及び交付決定前着手届提出	
		25	富山市有機農業実施計画実行支援業務委託契約	6,930千円
	5	9	○第1回富山市有機農業推進協議会	
		9	①実証ほ場設置（～10月中旬まで）	3ヶ所
		23	②有機農業取組拡大推進事業説明（えごま6次産業化推進G総会）	
	6	19	みどりの食料システム戦略推進事業補助金交付決定通知	7,200千円
		26	①有機農業取組拡大推進事業説明（なのはな農協営農指導員会議）	
		—	JA富山市広報での【富山市オーガニックビレッジ宣言】記事掲載	
	7	22	②有機農業の取組拡大についての出前講座（えがおプロジェクト）	35人
		26	①有機米栽培研修会【講師：小原営農センター宮田様】	25人
	8	2	④食と農をつなぐCSAの可能性に関する講演会 【講師：千葉商科大学人間社会学部准教授 小口広太 氏】	20人
	9	2～	②えごま油飲用モニター及びアンケート調査（10/19まで）	市スボ協等協力
		11	③加工品開発に係る加工業ヒアリング調査（富美菊酒造）	
	10	12	③加工品開発に係る加工業ヒアリング調査（福鶴酒造）	
		26	②富山市における有機農業の取組（学校給食衛生管理研修会）	28人
	11	30	④第1回富山市CSA型サポート組織検討ワーキンググループ	18人
		28	④第2回富山市CSA型サポート組織検討ワーキンググループ	20人
		3	②ワンデージャックフェスタでの有機農産物出品及びアンケート	
	12	23	②里山交流マルシェでの有機農産物出品及びアンケート	
		2～	②学校給食有機の日の実施（12/6まで）	全市立小中校
	令和7年	16	○第2回富山市有機農業推進協議会	
		1	①有機JAS認証取得勉強会【講師：(株)マイファーム高橋勉室長】	25人
		2	②有機農業取組拡大推進事業説明 (SDGsシネマ「夢みる給食」上映会&夢みるマルシェ)	100人
	3	8	①有機農業研修会【講師：兵庫農漁村社会研究所西村いつき理事】	共催 27人

①:生産拡大の取組 ②:消費拡大の取組 ③:加工品開発の取組 ④:サポート組織検討



有機農業推進協議会(5/9、12/16)



出前講座(7/22)



有機米栽培研修会(7/26)



CSAに関する講演会(8/2)



CSAに関するWG(9/30、10/28)



有機JAS認証取得勉強会(1/28)

## えごま油の飲用に関するアンケート調査

### 調査結果

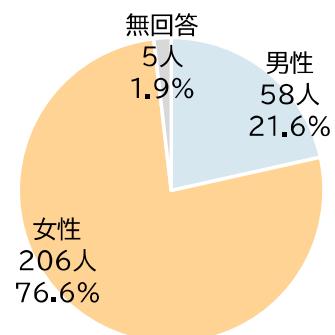
調査対象:中高年健康づくりコースを中心としたプログラムの参加者とその講師  
 調査方法:1日1回約2g(ティースプーン1杯)を飲んでいただき、約1か月後にアンケートに記入  
 調査期間:令和6年9月3日(火)~11月19日(土)えごま油配布  
 配布数:えごま油430本  
 回答数:269票

#### 問1 あなたご自身のことについて、次の項目ごとにお答えください。(○はひとつ)

##### (1)性別

「男性」が21.6%、「女性」が76.6%となっている。

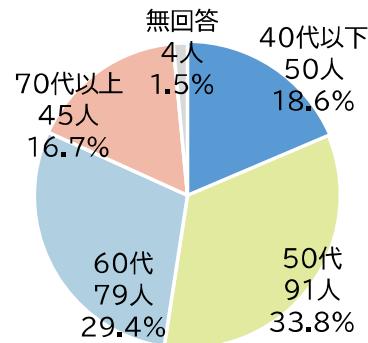
	回答数	割合
男性	58人	21.6%
女性	206人	76.6%
その他	0人	0.0%
無回答	5人	1.9%
合計	269人	100%



##### (2)年齢

「50代」が最も多く33.8%となっている。

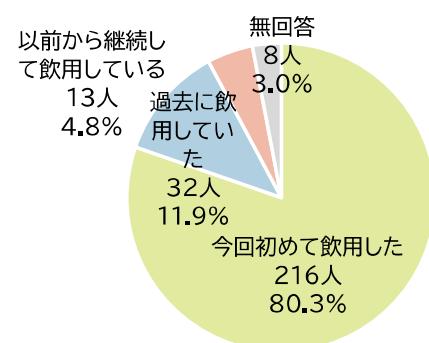
	回答数	割合
40代以下	50人	18.6%
50代	91人	33.8%
60代	79人	29.4%
70代以上	45人	16.7%
無回答	4人	1.5%
合計	269人	81%



##### (3)えごま油のこれまでの飲用

「今回初めて飲用した」が最も多く80.3%となっている。

	回答数	割合
今回初めて飲用した	216人	80.3%
過去に飲用していた	32人	11.9%
以前から継続して飲用している	13人	4.8%
無回答	8人	3.0%
合計	269人	100%

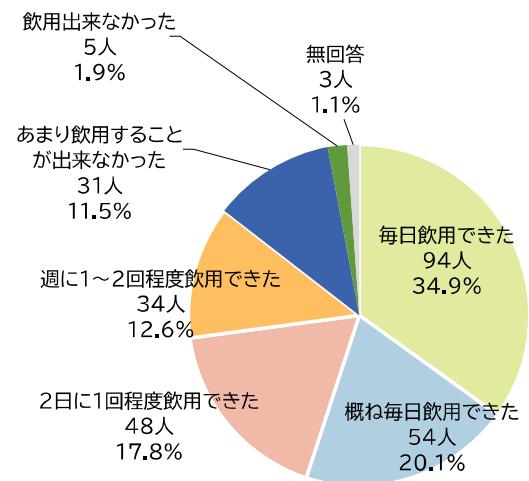


## 問2 飲用についてお答えください。(○はひとつ)

(1) 小さじ1杯(約2g)をどのくらいの頻度で飲用できましたか。

「毎日飲用できた」が4.9%で、次いで「概ね毎日飲用できた」が20.1%となっている。

	回答数	割合
毎日飲用できた	94人	34.9%
概ね毎日飲用できた	54人	20.1%
2日に1回程度飲用できた	48人	17.8%
週に1~2回程度飲用できた	34人	12.6%
あまり飲用することが出来なかつた	31人	11.5%
飲用出来なかつた	5人	1.9%
無回答	3人	1.1%
合計	269人	100%



(2) 主にいつどのように飲用されましたか。

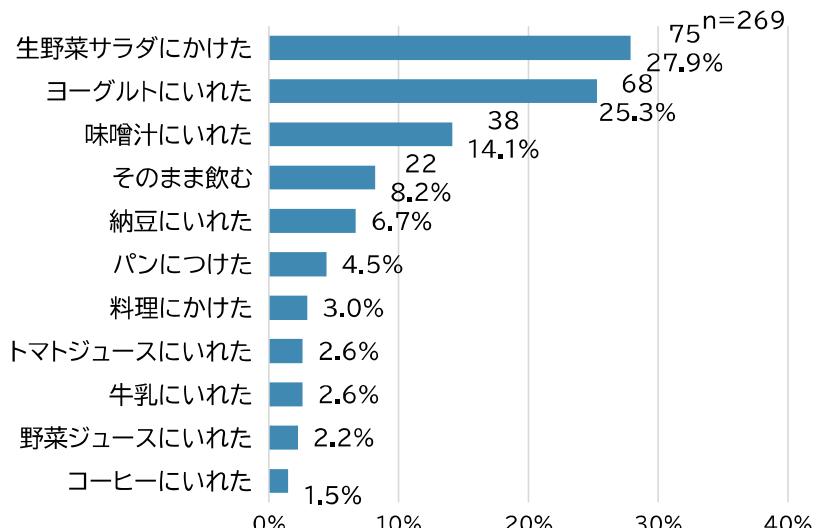
「生野菜サラダにかけた」が27.9%、次いで「ヨーグルトにいれた」が25.3%となっている。

n=269

	回答数	割合
生野菜サラダにかけた	75	27.9%
ヨーグルトにいれた	68	25.3%
味噌汁にいれた	38	14.1%
そのまま飲む	22	8.2%
納豆にいれた	18	6.7%
パンにつけた	12	4.5%
料理にかけた	8	3.0%
トマトジュースにいれた	7	2.6%
牛乳にいれた	7	2.6%
野菜ジュースにいれた	6	2.2%
コーヒーにいれた	4	1.5%

### <その他の飲用方法>

お浸しにかけた
お茶にいれた
ごはんにかけた
スムージーにいれた
豆乳にいれた
スープにいれた
パスタにかけた
ピザにかけた
めかぶにいれた
ゆで卵にかけた
ラーメンにいれた
玉ねぎ酢を水で薄めたものにいれた
刺身にかけた
豆腐にかけた
麺類にいれた
野菜スープにいれた
汁物



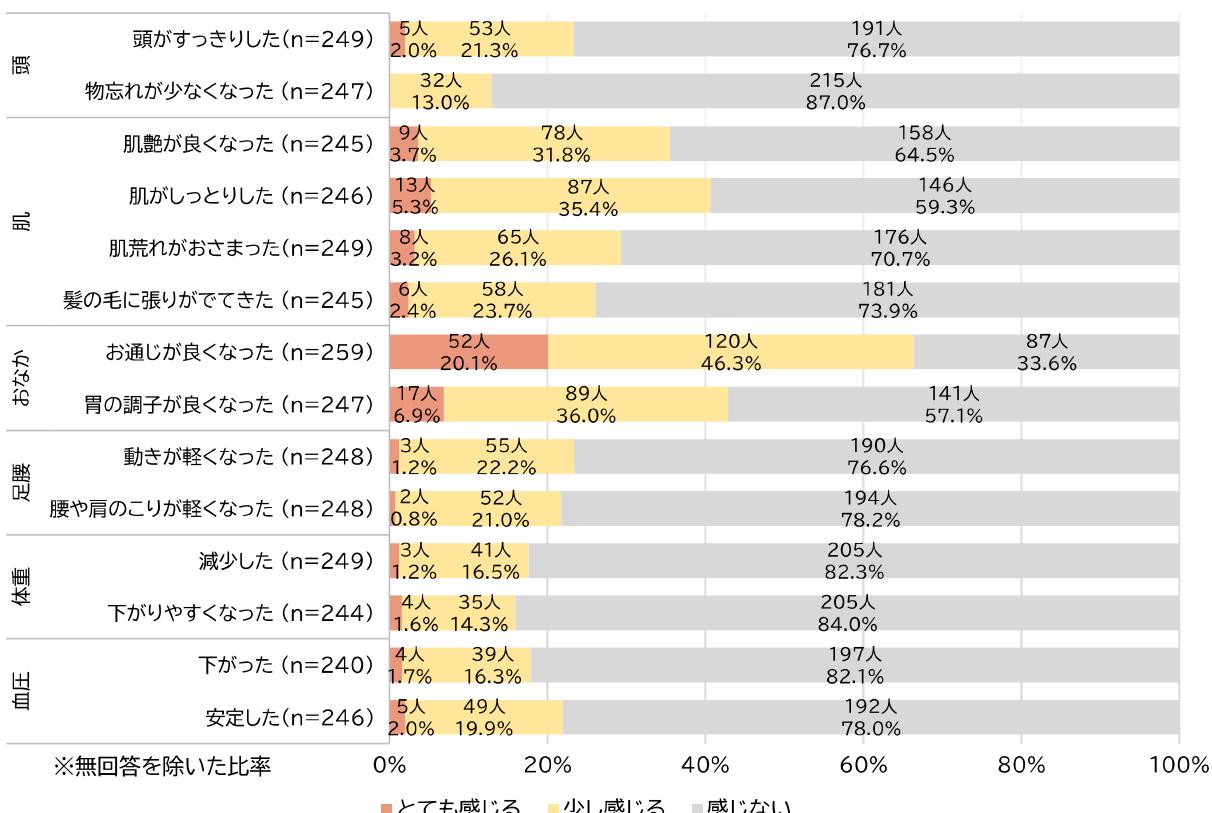
問3 飲用してどの程度の改善効果を感じましたか。(各項目で○はひとつ)

全体でみると、「お通じが良くなった」が66.4%、「胃の調子が良くなった」が42.9%となっており、「おなか」に関する改善効果を感じた割合が高かった。次いで、「肌がしっとりした」40.7%、「肌艶が良くなった」35.5%と「肌」に関する改善効果を感じた割合が高くなっている。

令和6年の性別・年齢別で見ると、「お通じが良くなった」では男性50代を除く全性別・年齢別で効果を感じた割合が高い。「胃の調子が良くなった」では男性40代、60代で効果を感じた割合が高く、「肌がしっとりした」では男性40代及び女性50代の効果を感じた割合が高くなっている。

年代別に見ると、70代以上では効果を感じた割合が全体的に低い傾向となっている。

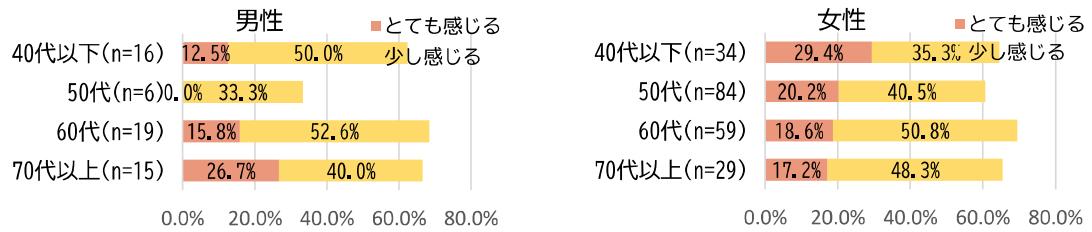
		とても感じる	少し感じる	感じない	無回答	合計
頭	頭がすっきりした	5人	53人	191人	20人	269人
	物忘れが少なくなった	0人	32人	215人	22人	269人
肌	肌艶が良くなった	9人	78人	158人	24人	269人
	肌がしっとりした	13人	87人	146人	23人	269人
おなか	肌荒れがおさまった	8人	65人	176人	20人	269人
	髪の毛に張りがでてきた	6人	58人	181人	24人	269人
おなか	お通じが良くなった	52人	120人	87人	10人	269人
	胃の調子が良くなった	17人	89人	141人	22人	269人
足腰	動きが軽くなった	3人	55人	190人	21人	269人
	腰や肩のこりが軽くなった	2人	52人	194人	21人	269人
体重	減少した	3人	41人	205人	20人	269人
	下がりやすくなつた	4人	35人	205人	25人	269人
血圧	下がつた	4人	39人	197人	29人	269人
	安定した	5人	49人	192人	23人	269人



【クロス分析】性別・年代×改善効果を「とても感じる」、「少し感じる」と回答した割合

<お通じが良くなった>

○令和6年

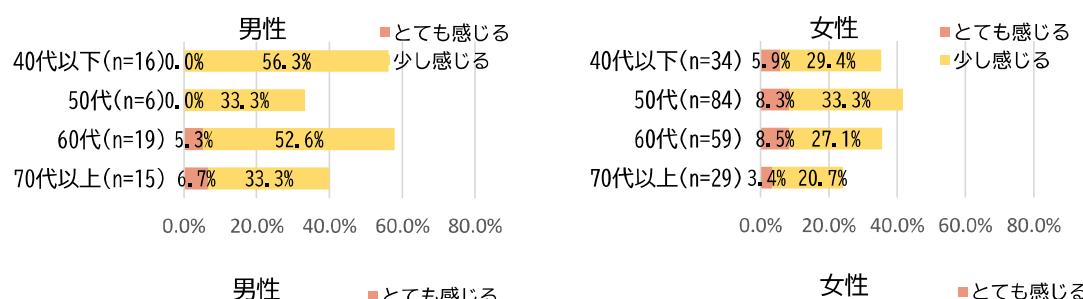


○令和5年



<胃の調子が良くなった>

○令和6年



○令和5年



<肌がしっとりした>

○令和6年



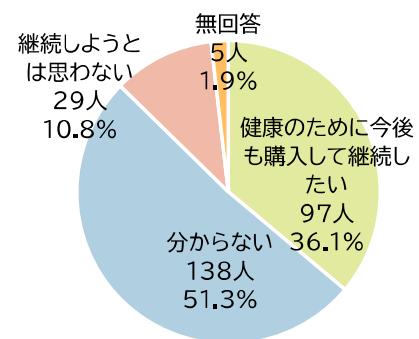
○令和5年



問4 今後の飲用について、お考えをお聞かせください。(○はひとつ)

「分からぬ」が51.3%で、次に「健康のために今後も購入して継続したい」が36.1%となっている。

	回答数	割合
健康のために今後も購入して継続したい	97人	36.1%
分からぬ	138人	51.3%
継続しようとは思わない	29人	10.8%
無回答	5人	1.9%
合計	269人	100%



○「継続しようとは思わない」の理由

意見
値段
高いから
高額のため
お値段が高いので。良いものだからと思うのですが、お試しありがとうございました。
値段と効果で悩みます。
高価すぎる。
値段が高いので。
高額のため
値段が高価なので継続は難しい
高いので…
代金が高い
少々くせが
苦手でした。飲みにくい
油にくせがある(におい)
においが気になりました。カプセル状のものがあったら継続したい。
におい
食べづらいから
香りが合わない
効果を感じなかったので。
あまり効果を感じなかった
効果を感じない
効果がなかったので。
目に見える効果を感じられなかったため
あわない
なかなか飲めないので(忘れる)

## 学校給食有機の日 アンケート調査結果

調査対象：学校給食有機の日で有機米を食べた生徒等のうち、小学校高学年の児童と先生

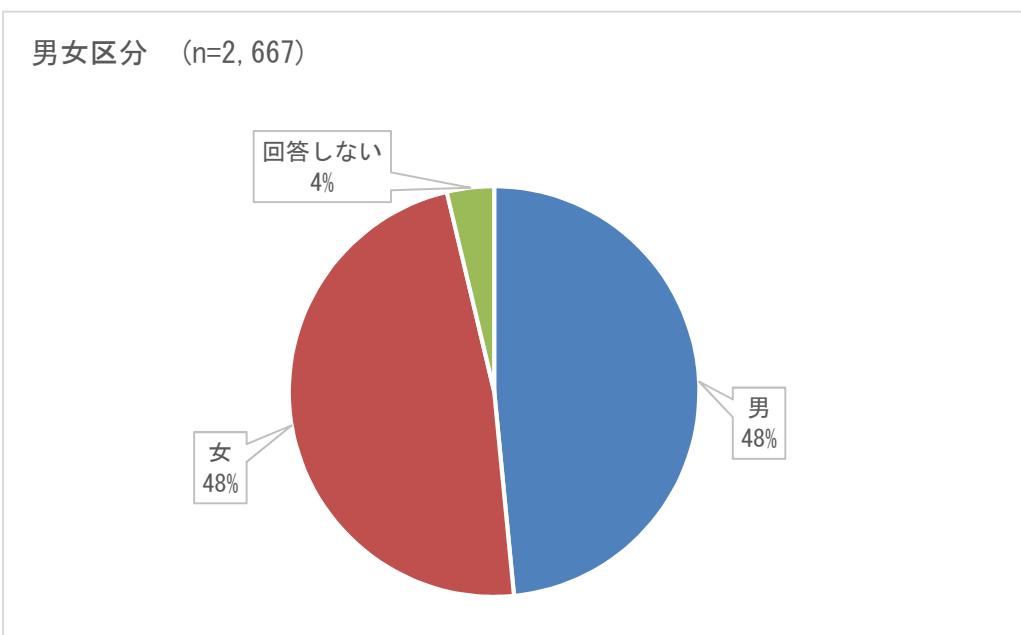
調査方法：有機米の紹介資料から WEB アンケートへの回答を依頼

調査期間：令和6年12月2日（月）～ 6日（金）学校給食有機の日実施日（各校1回）

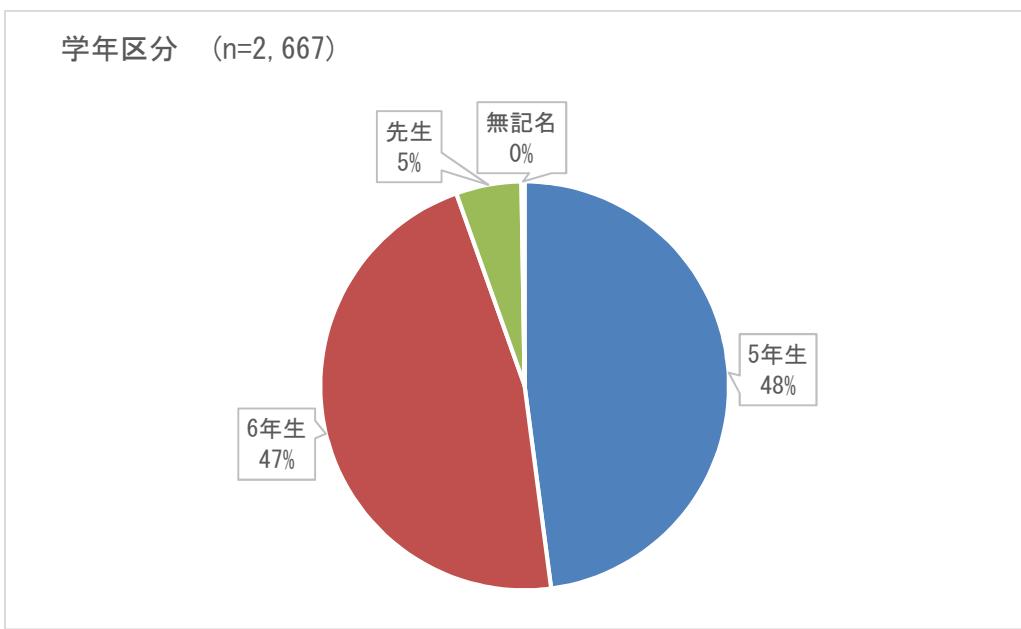
回答期間：令和6年12月2日（月）～ 24日（火）

回答者数：2,672人（うち有効回答数 2,667人）

### ■基本情報



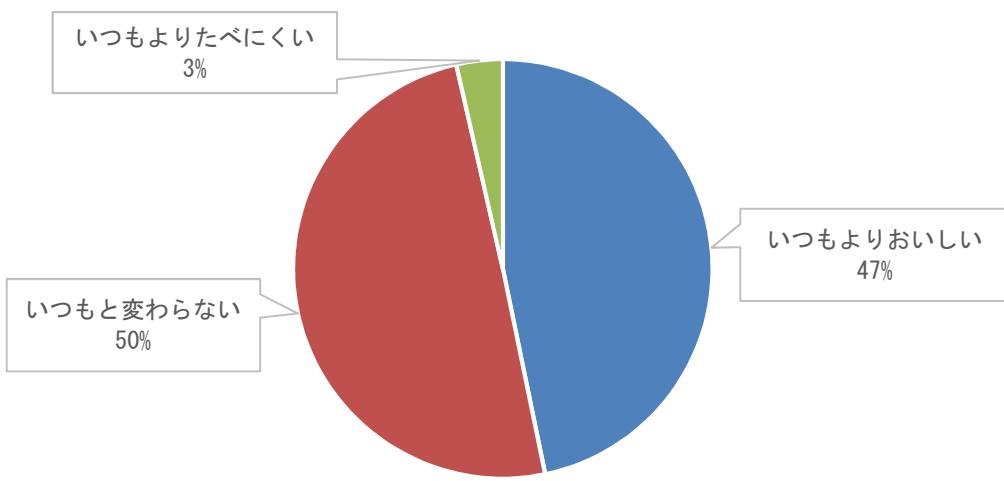
男女比率はほぼ半々。



学年は、5年生 48%、6年生 47%となっている。

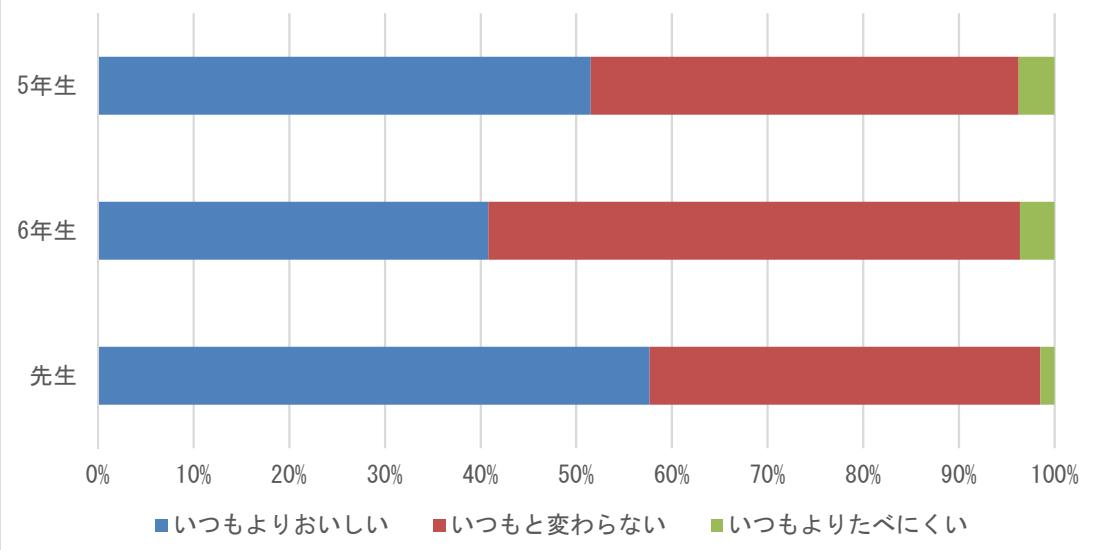
■問 本日の「ごはん」はいつもと違い、化学合成農薬や化学肥料を使っていない「有機米」でした。食べてみてどう感じましたか。

どう感じたか（全体） (n=2,662)



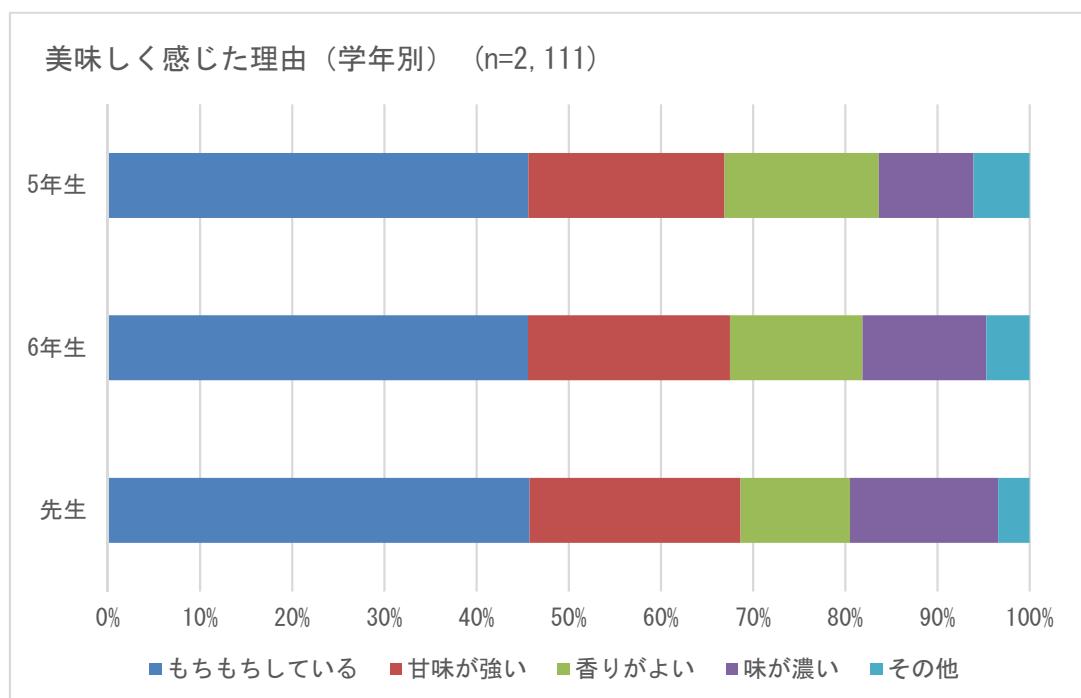
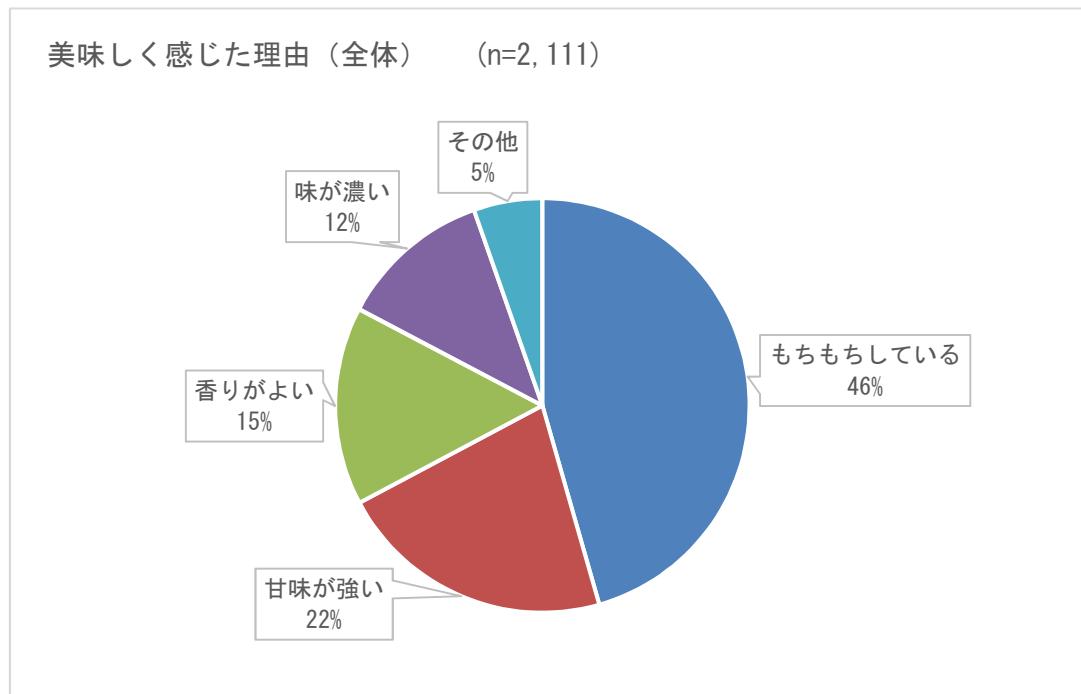
いつもよりおいしいと感じた者が47%、いつもと変わらないと感じた者が50%となった。

どう感じたか（学年別） (n=2,662)



学年別にみると、5年生ではいつもよりおいしいと感じた児童が半数を超え、6年生とで約1割程度の差があった。

■問 「いつもよりおいしい」と答えた人にお聞きします。その理由を次から選んでください（複数回答可）。

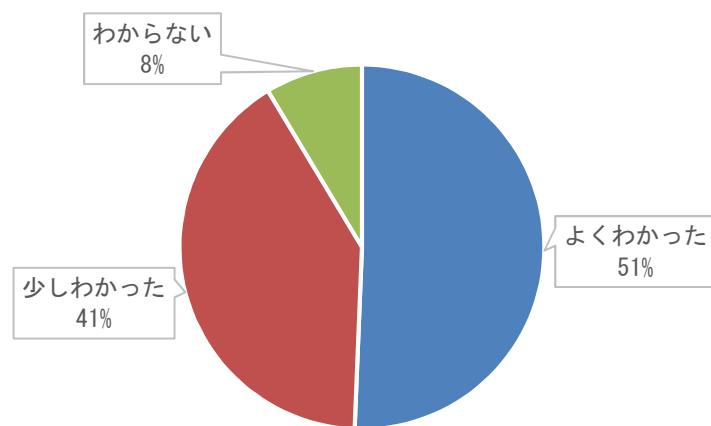


「もちもちしている」と感じた者が46%と最も多く、次いで「甘味が強い」と感じた者が22%となった。

なお、学年別では差がなかった。

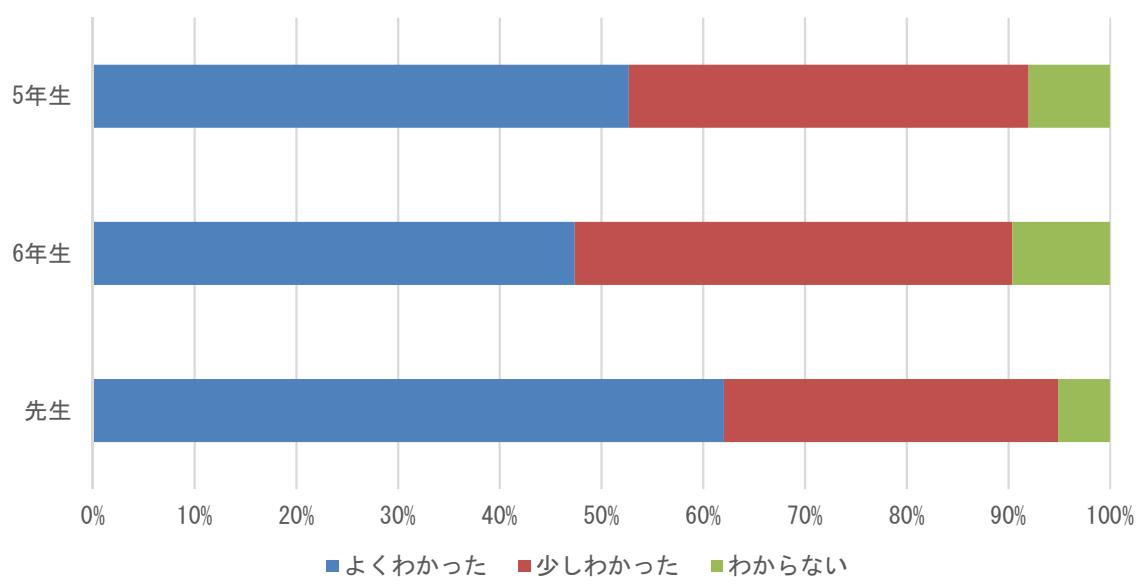
■問 「有機米」などの有機農産物を皆さん食べ、その栽培が広がることで、生き物の数が増えたり、地球の温暖化が抑えられたりしSDGsの達成にもつながります。今回の経験で、その関係がよくわかりましたか。

有機農業と環境保全の関係（全体）（n=2,656）

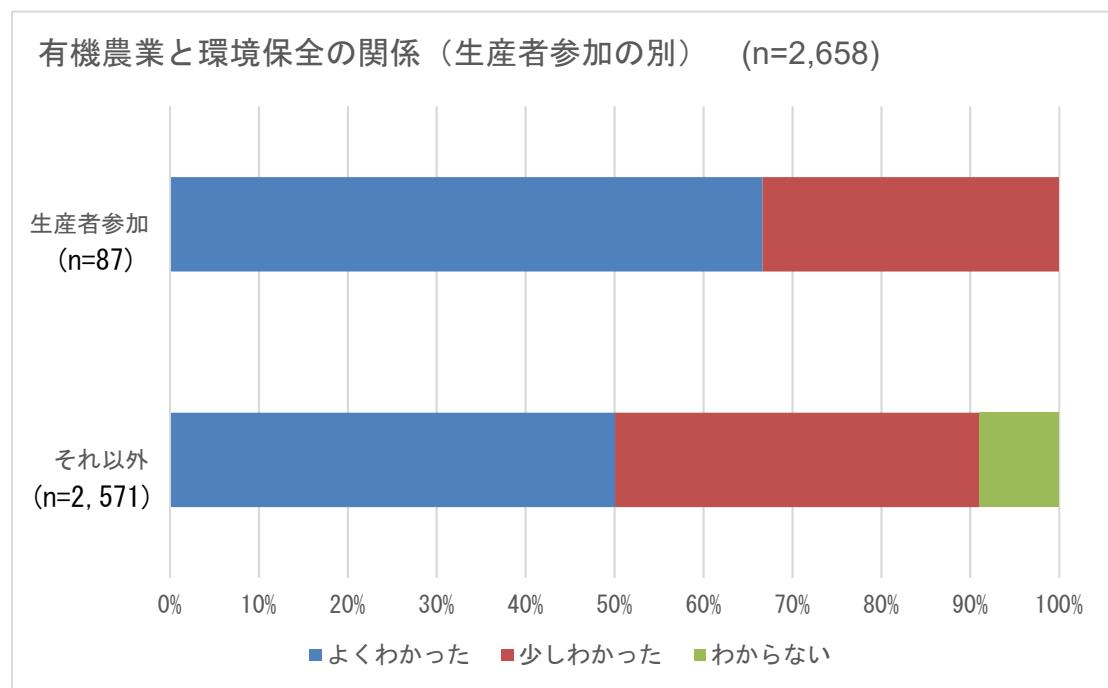


有機米を食したことで、有機農業と環境保全の関係性について「よくわかった」が51%、「少しわかった」が41%となり、両者をあわせると、9割以上の者が理解を深めたと推察された。

有機農業と環境保全の関係（学年別）（n=2,656）



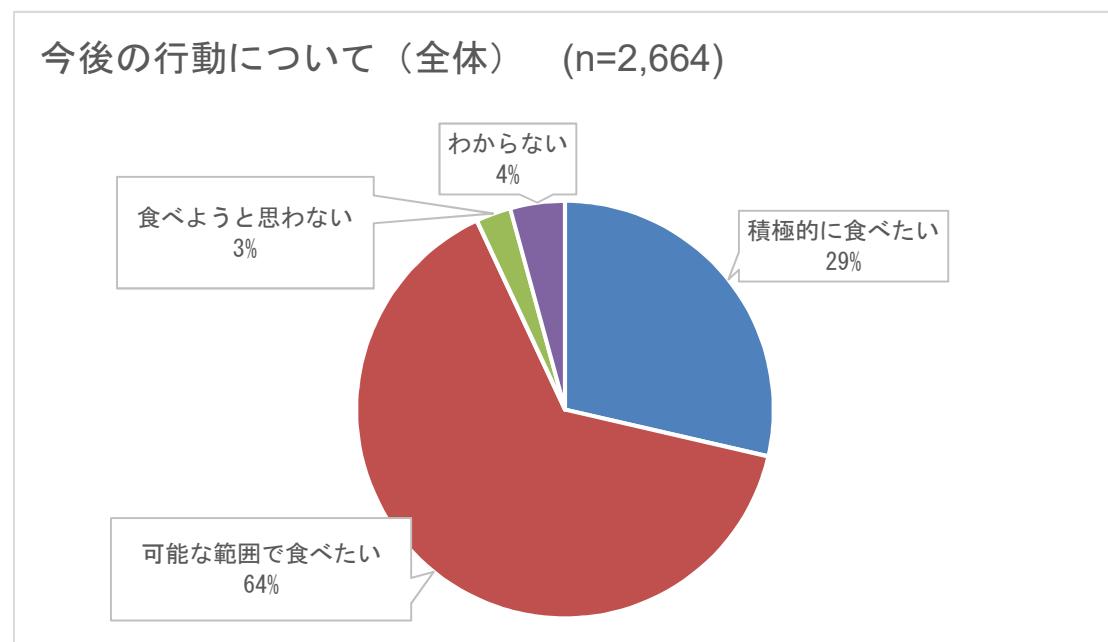
学年別にみると、6年生より5年生の方がやや理解が進んだ割合が高くなつたが、全体的に大きな差はなかつた。

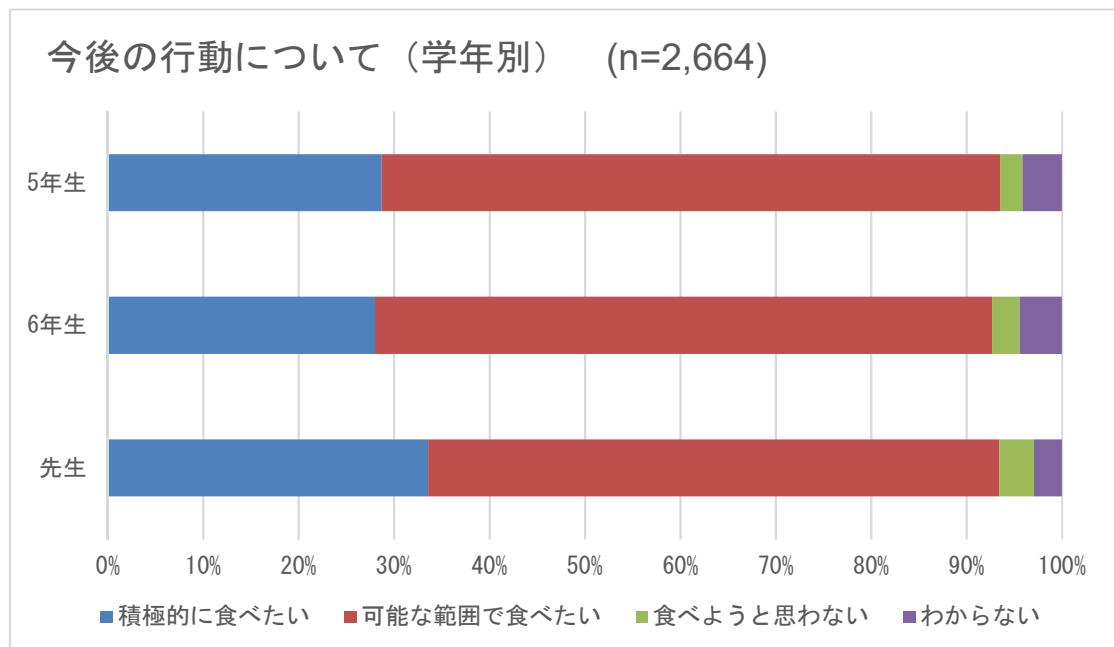


有機米生産者に参加していただいた学校とそれ以外の学校を比較したところ、生産者が参加し、直接生徒とお話できた学校の方が、理解が深まる傾向がみられた。

より効果的に理解を促進するため、生産現場の映像等を作成し放映するなど周知方法を検討する必要性が示唆された。

■問 一人一人が有機農産物を選んで食べるという行動が、これから地球の環境保全につながります。今後どのようにしようと思いますか。

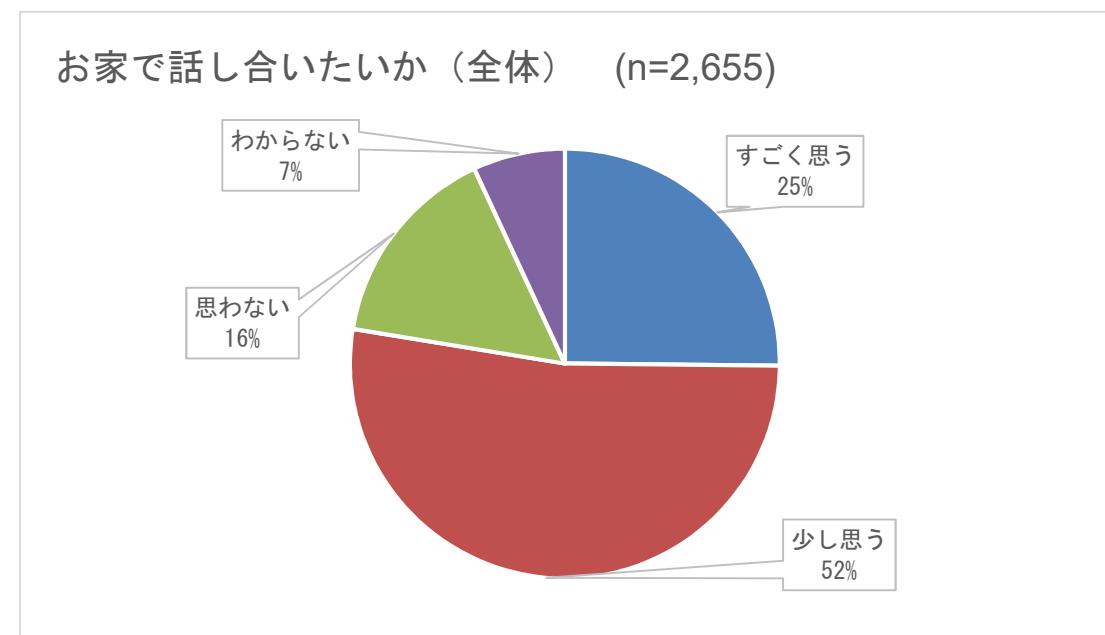




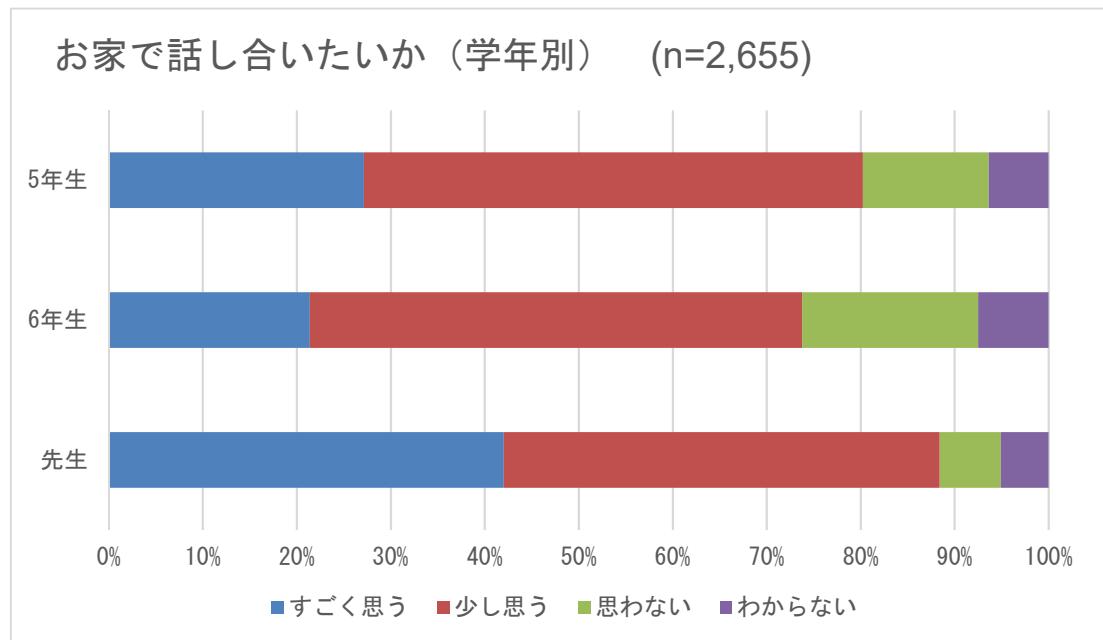
可能な範囲で食べたいが 64% と最も多くなったが、積極的に食べたいと回答した者が約 3 割を占め、合計で 9 割以上が何らかの形で行動をしたいと回答した。

なお、この傾向は学年別で差はなかった。

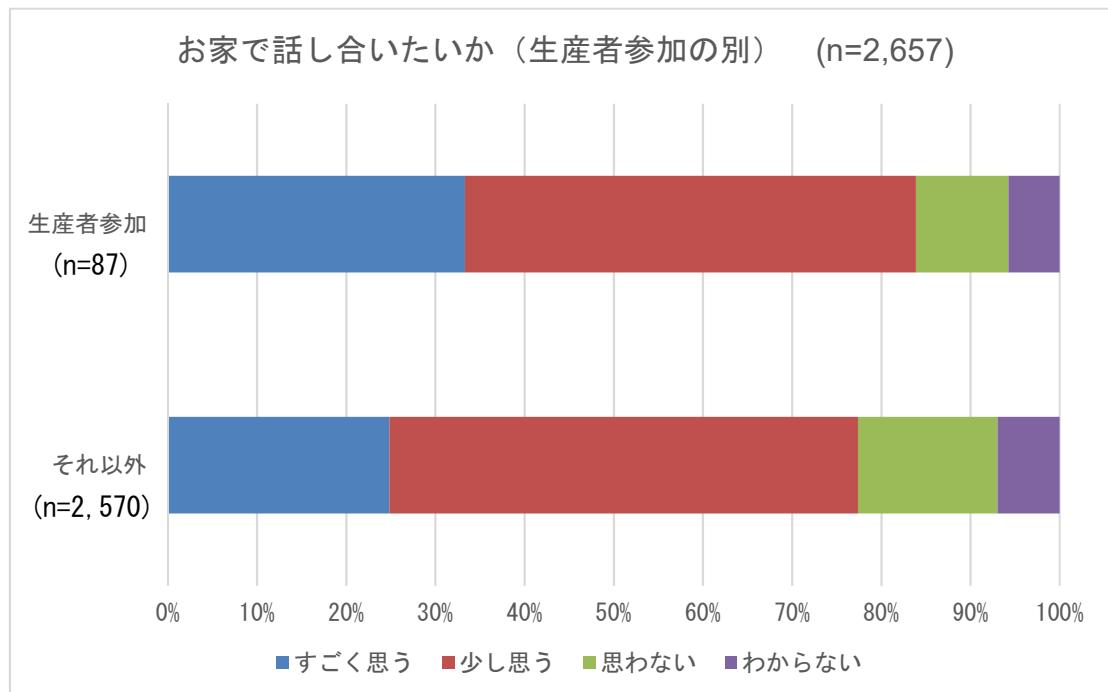
■問 給食で食べた有機米のことや有機農業が地球環境の保全につながることをお家で話し合いたいと思いますか。



「すごく思う」と回答した者が 25%、「少し思う」が 52% を占め、8 割近くがお家で話したいと回答した。



なお、学年別でみると、6年生より5年生の方が「すごく思う」や「少し思う」の割合が多くなる傾向があったことから、中学年や低学年になればさらに増えている可能性がある。

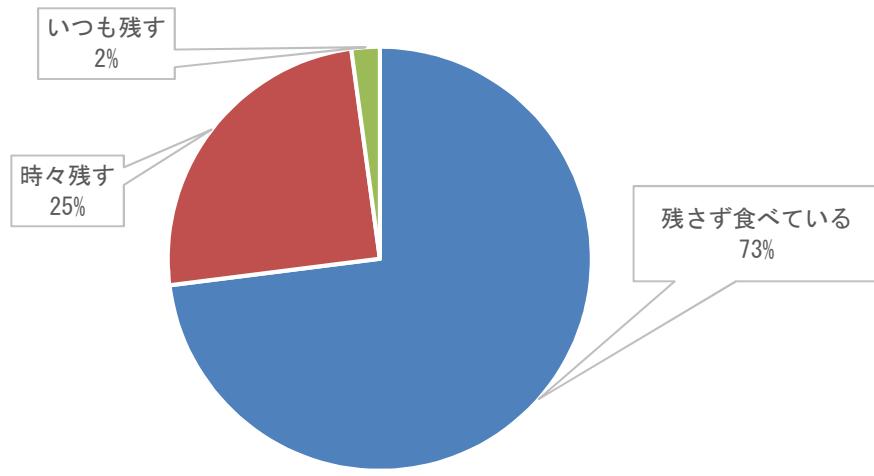


有機米生産者に参加していただいた学校とそれ以外の学校を比較したところ、生産者が参加し、直接生徒とお話できた学校の方が、同様に意識が高くなる傾向がみられた。

今後はこのような差が生じないよう、生産者等の映像などを交えるなど、周知方法を検討する必要性が示唆された。

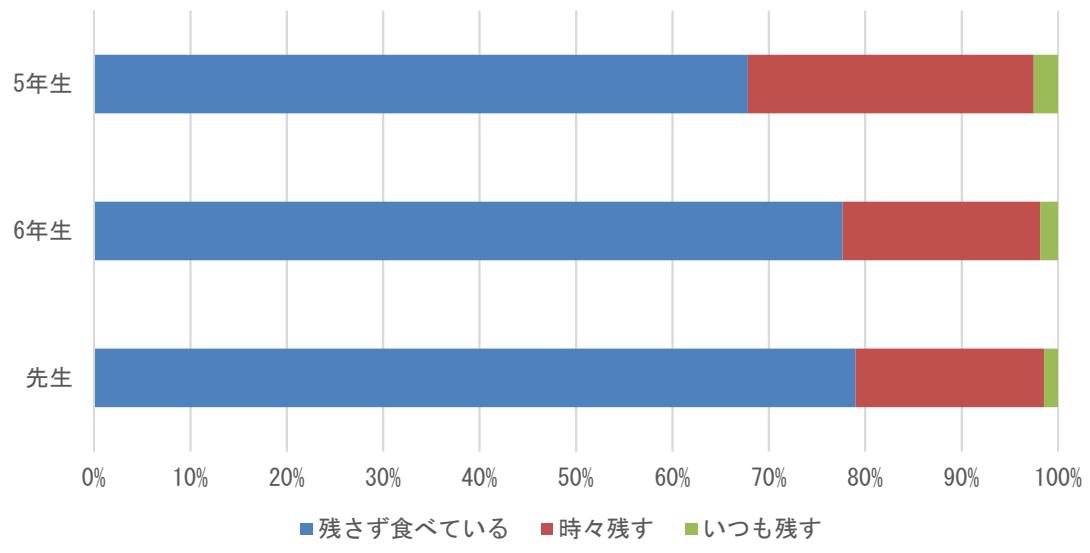
■問 いつも給食は残さず食べていますか。

いつも給食は残さず食べているか (全体) (n=2,655)



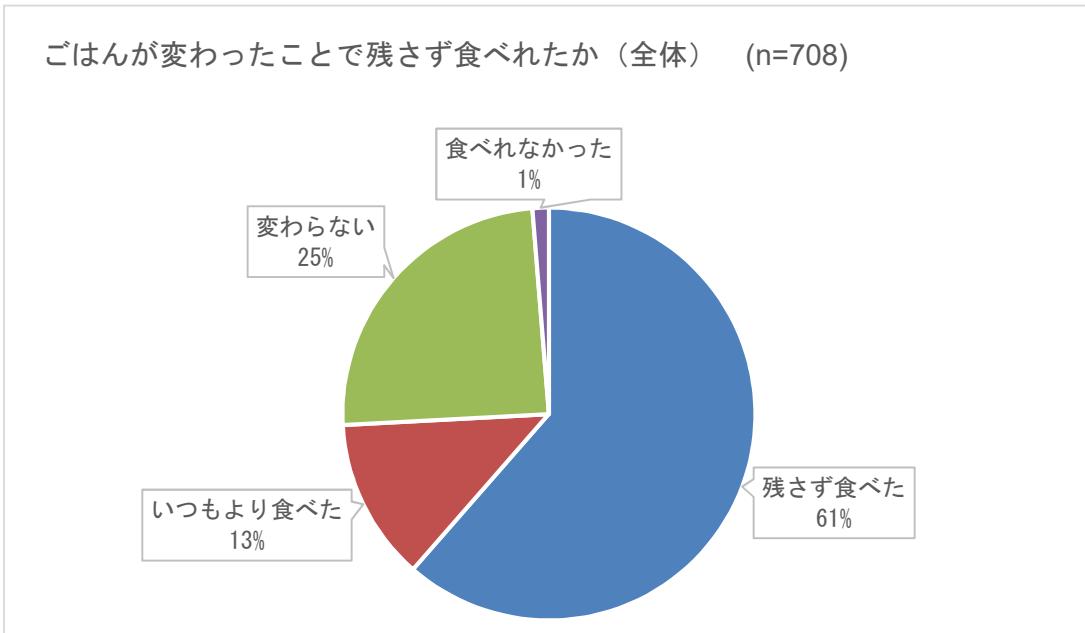
「いつも残さず食べている」が最も多く73%、「時々残す」が25%を占める。

いつも給食は残さず食べているか (学年別) (n=2,655)

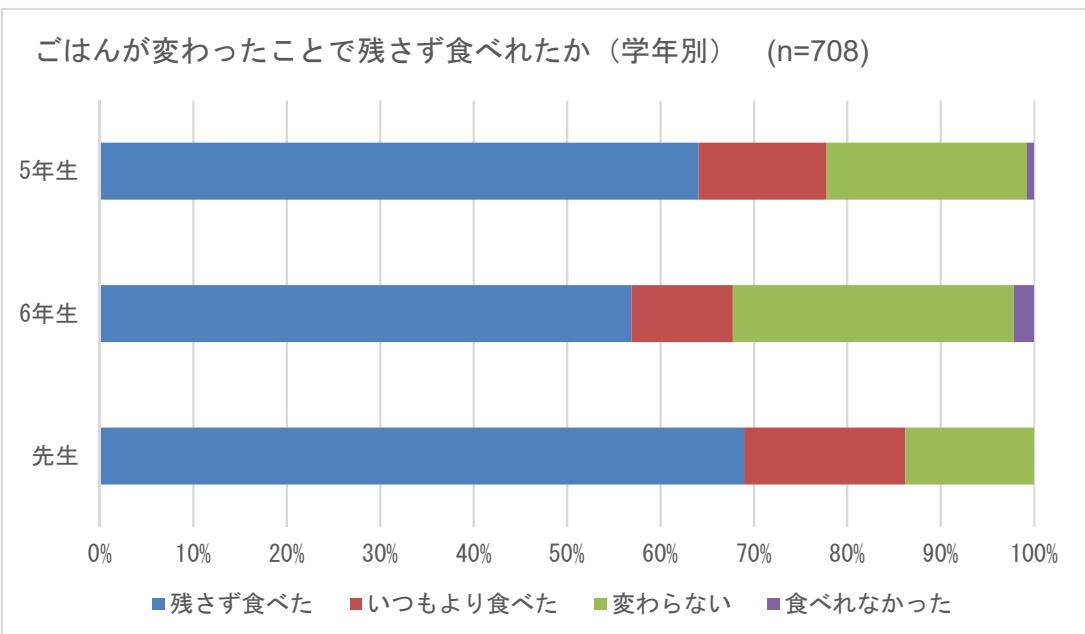


学年別にみると、6年生に比べ5年生の方が「時々残す」と回答した者の割合が増える傾向がある。

■問 「時々残す」「いつも残す」と答えた人にお聞きします。本日の「ごはん」はいつもと違う「有機米」でした。「ごはん」が変わったことで、給食を残さず食べましたか。



ごはんが有機米に変わったことで、残さず食べたという者が61%、「いつもより食べた」の13%とあわせると、74%の者がいつもより食べたと回答した。



学年別にみると、6年生に比べ5年生の方が「残さず食べた」や「いつもより食べた」と回答した児童が多い傾向があった。

有機米にすることで、いつもより多く食べる傾向となる可能性が示唆された。

## 有機JAS認証取得勉強会参加者アンケート 調査結果

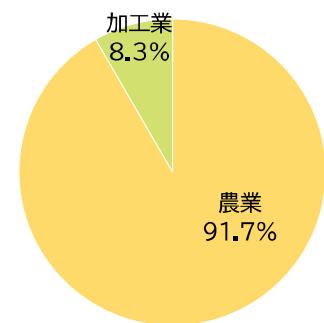
調査期間:2025年1月28日(火)  
回答数:12票

### ■ 基本情報

#### 経営区分

「農業」が91.7%、「加工業」が8.3%となっている。

	回答数	割合
農業	11	91.7%
加工業	1	8.3%
その他	0	0.0%

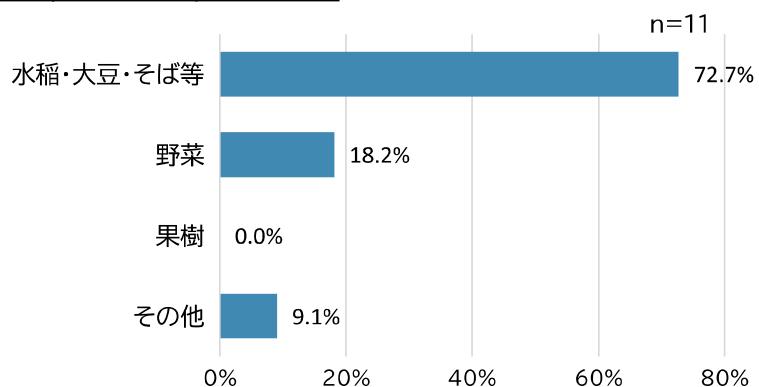


#### 農業の方栽培品目

「水稻・大豆・そば等」が72.7%、「野菜」が18.2%となっている。

n=11

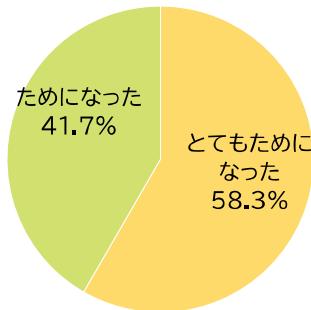
	回答数	割合
水稻・大豆・そば等	8	72.7%
野菜	2	18.2%
果樹	0	0.0%
その他	1	9.1%



### 問1 勉強会に参加したご感想をお聞かせください。(団はひとつ)

「とてもためになった」が58.3%、「ためになった」が41.7%となっている。

	回答数	割合
とてもためになった	7	58.3%
ためになった	5	41.7%
どちらとも言えない	0	0.0%
合計	12	100%



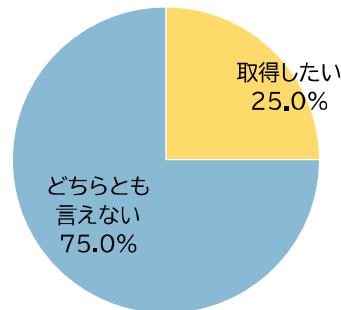
#### 上記回答理由

有機JASがどんなものか理解できた
有機JASの多くの情報を理解できた
JASについての知識が深まった取得はもう少し後にしたい
本を読んでも有機についてあまり理解できなかつたので、今回の話は分かりやすくて良かったです
農薬の使い方についてよくわかった
日本酒にも有機米使用表示ができると分かった

### 問2 今後の有機JAS認証の取得意向についてお聞かせください。(団はひとつ)

「どちらとも言えない」が75.0%、「取得したい」が25.0%となっている。

	回答数	割合
取得したい	3	25.0%
取得するつもりはない	0	0.0%
どちらとも言えない	9	75.0%
合計	12	100%



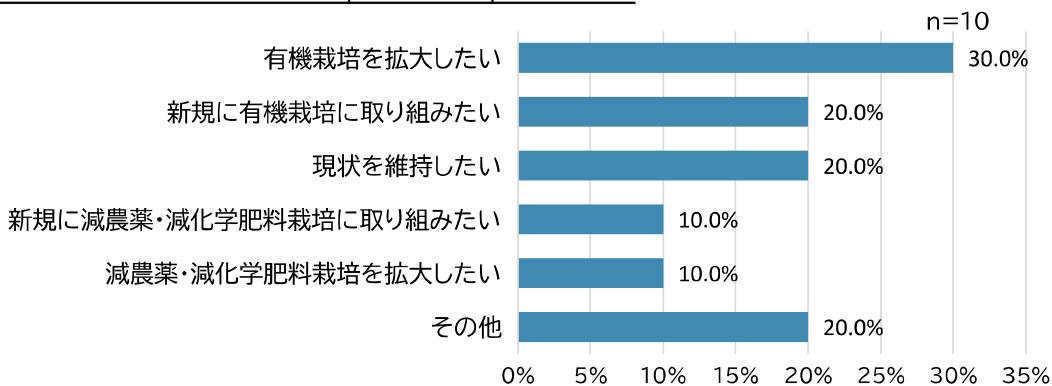
### 問3 有機栽培や有機農産物を原料とした商品開発への取組のお考えをお聞かせください。

#### 《農業者の方》

「有機栽培を拡大したい」が30.0%、「新規に有機栽培に取り組みたい」「その他」が20.0%となっている。

n=10

	回答数	割合
有機栽培を拡大したい	3	30.0%
新規に有機栽培に取り組みたい	2	20.0%
現状を維持したい	2	20.0%
新規に減農薬・減化学肥料栽培に取り組みたい	1	10.0%
減農薬・減化学肥料栽培を拡大したい	1	10.0%
その他	2	20.0%



#### 上記回答理由

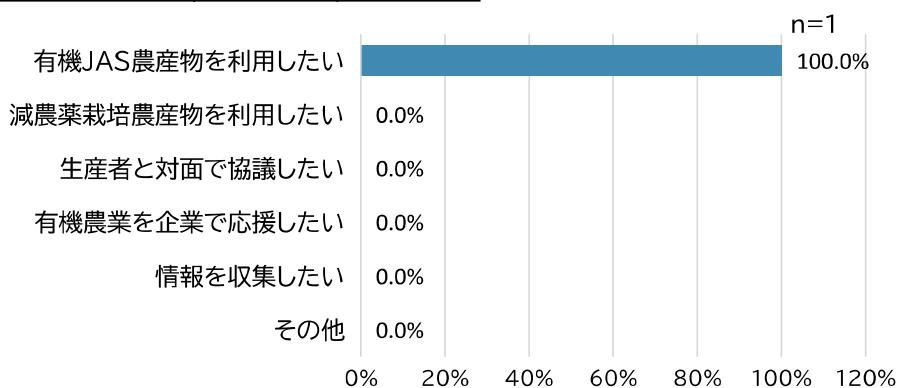
現在もハウス増築中
今後もっと生産を増やす予定です
今後、どのように拡大していくのか選択肢の一つで、今はまだしていませんが前向きに進めていきたいです
水稻で経営を行うのにあたって、収入源の価格を引き上げるための方法の一つとして取り組みたい

#### «加工業・その他の方»

「有機JAS農産物を利用したい」が100.0%となっている。

n=1

	回答数	割合
有機JAS農産物を利用したい	1	100.0%
減農薬栽培農産物を利用したい	0	0.0%
生産者と対面で協議したい	0	0.0%
有機農業を企業で応援したい	0	0.0%
情報を収集したい	0	0.0%
その他	0	0.0%



#### 問4 市内での有機農業推進に向け、必要な取組や支援について、お考えをお聞かせください。

空いていたり使っていない農業用地の譲渡など
補助金など、自身が取組む際の負担を減らす手段を知りたい
新しい設備投資が必要となるため、補助制度の拡充をお願いしたい
具体的に受付する窓口はどこなのか。認証費はどこに納めるのか。有機JAS認証された米の需要はどれくらいあるのか。審査に必要な書類の様式を知りたい。

◎有機農業実施計画の面積等目標達成状況

区分		R4 (当初)		R5 (実績)		R6 (実績)		R10 (目標)		達成状況	
		面積 (ha)	経営体数	面積 (ha)	経営体数	面積 (ha)	経営体数	面積 (ha)	経営体数	面積 (ha)	経営体数
有機農業	水稻	80.2	13	87.1	14	92.2	14	105.2	15	△ 13.0	△ 1
	えごま	0.0	0	0.0	0	0.0	0	5.0	2	△ 5.0	△ 2
	野菜・果樹	19.1	5	19.1	6	24.6	6	20.1	7	4.5	△ 1
有機農業計 (経営体は延べ)		<u>99.3</u>	18	106.2	20	116.8	20	<u>130.3</u>	24	<u>△ 13.5</u>	△ 4
内有機JAS	水稻	<u>74.6</u>	<u>5</u>	75.8	5	76.7	5	<u>84.6</u>	<u>7</u>	<u>△ 7.9</u>	<u>△ 2</u>
	えごま	<u>0.0</u>	<u>0</u>	0.0	0	0.0	0	<u>5.0</u>	<u>2</u>	<u>△ 5.0</u>	<u>△ 2</u>
	その他	18.7	4	19.0	5	22.3	5	19.7	5	2.6	0
内有機JAS計 (経営体は延べ)		93.3	9	94.8	10	99.0	10	109.3	14	△ 10.3	△ 4
有機JAS米 販売数量	小原営農	103 t		104 t		※確定後、 報告願います！		104 t		t	
	土遊野	51 t		37 t				52 t		t	
	新規	0 t		0 t		0 t		1 t		t	
有機米計		154 t		141 t		0 t		157 t		t	
有機JASえごま	新規	<u>0 t</u>		0 t		0 t		<u>1.5 t</u>		<u>△ 1.5 t</u>	
総合計		154 t		141 t		0 t		158.5 t		t	

※計画目標数値設定

## 資料2 令和7年度の取組みについて

### 1 富山市有機農業推進協議会

協議会の開催（年2回を予定）

第1回 令和6年度の取組み実績・令和7年度の取り組み計画

第2回 令和7年度の取組み中間報告・令和8年度の取組みへの提言（予算化検討）

### 2 生産拡大関係

#### （1）有機栽培展示ほ場の設置と栽培記録の収集（3か所設置済み 資料2-1）

市民が自由に見学できるほ場を設置、富山市HP等で場所や生育状況を公開

①有機米2か所

（有）土遊野様 ほ場：富山市小羽 1587

（有）小原営農センター様 ほ場：富山市岩木 224

②無農薬無化学肥料栽培えごま1か所

JAあおば えごま・ごま生産部会

永瀬秀幸様 ほ場：富山市下夕林 551 他

#### （2）有機栽培技術研修会の開催（1回）

慣行・特別栽培で農業経営を行う認定農家や認定新規就農者等を募集し、有機農業実践者を講師とした栽培技術研修会（機械実演含む）を行う。

令和6年度：7月26日（金）10時～ 講師（有）小原営農センター 宮田香代子様

令和7年度：月 日（）時～ 講師 中央農業高校（案） 資料2-2

※とやま有機農業アカデミー（県）の日程に留意

#### （3）有機JAS認証等の取得勉強会（1回）

慣行・特別栽培で農業経営を行う認定農家や認定新規就農者等を募集し、専門家を講師とした有機JAS認証の基礎的知見を学ぶ勉強会を行う。

令和6年度：1月24日（水）10時～ 講師（株）マイファーム 高橋勉様

令和7年度：月 日（）時～ 講師

#### （4）有機JAS認証取得支援事業（予算額：150千円）

農業者が有機JAS認証を取得する際の申請・審査等に要する経費に対し支援するもの。

ア. 対象者 有機JAS認証取得に取り組む認定農業者や認定新規就農者及びそれらを構成員とする任意組織等

イ. 補助率 1/2

ウ. 補助上限 個人5万円、組織10万円

※4月末現在 問い合わせ1件（生産）（あおば農協管内 作物：水稻）

## (5) 有機農業用機械導入支援（みらい農業推進事業補助金（市））

### ①有機農業チャレンジタイプ（予算額：666千円）

有機農業で栽培することにより労力がかかる作業（ほ場内及び畦畔の除草、堆肥散布等）の負担を軽減するための機械導入や改造等に対する支援を行うもの。

ア. 対象者 有機農業に新たに取り組む認定農業者や認定新規就農者及びそれらを構成員とする任意組織等

イ. 対象品目 水稻、園芸、果樹

ウ. 対象機械 除草ロボ、アイガモロボ、歩行式除草機、ペレット散布機など

エ. 標準事業費 1,000千円

オ. 補助率 1/3以内

カ. 補助上限 333千円

※4月末現在 問い合わせ0件（農協管内）

### ②有機農業拡大タイプ（予算額：1,000千円）

有機JAS認証ほ場を拡大することにより労力がかかる作業（緑肥粉碎、堆肥散布、除草等）の負担を軽減するための機械等の導入に対する支援を行うもの。

ア. 対象者 有機JAS認証取得済みもしくは認証取得移行期間にある認定農業者や認定新規就農者及びそれらを構成員とする任意組織等

イ. 対象品目 水稻、園芸、果樹

ウ. 対象機械 ①ウのほか、緑肥粉碎用フレールモア、有機資材散布用機械、乗用除草機など

エ. 標準事業費 1,500千円

オ. 補助率 1/3以内

カ. 補助上限 500千円

※4月末現在 問い合わせ0件（農協管内）

## (6) 有機転換推進事業（予算額：400千円）

新たに有機農業への転換等を実施する農業者に対して、有機農業の生産を開始するにあたり、土づくりなど必要な経費について支援するもの。

ア. 対象者 有機農業に取り組む新規就農者や農業者

イ. 対象農地 慣行栽培から有機農業への転換初年度となる農地

ウ. 支援単価 2万円以内/10a（定額）

※4月末現在 問い合わせ2~3件（あおば農協管内 作物：えごま）

## 3 消費拡大関係

### (1) 市主催のイベントへの出品と消費者アンケート調査（1回）

11月 2日（日） ワンデージャックフェスタ 富山駅

## (2) 有機米の学校給食（1回）

12月8日（月）～12日（金）の間

有機米の提供を予定

現在、必要数量、費用等を市教育委員会学校保健課と調整中

今後、出荷者を協議・決定

・・・令和6年度：(有)土遊野産 有機コシヒカリ 2.6 t

令和7年度：ベースは(有)土遊野産として、他の有機JAS農家のお米も加える

## (3) 富山えごま油飲用モニターアンケート（400人分）

令和6年度：富山市スポーツ協会主催のプログラム等で配布

令和7年度：あおば農協からえごま油のサンプルを提供いただき、パワリハ施設や  
公衆浴場利用者等での実施を予定

・・・昨年度と同じ市民がモニターとならないよう留意

## 4 加工品開発関係

酒造メーカーと生産者のマッチングから、次年度の有機栽培米日本酒製造を目指す

## 5 富山市 CSA型サポート組織の検討

### (1) ワーキンググループで提案された以下の企画案の実行を行う。

企画案①	富山市オーガニックお弁当企画
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>市内のお弁当業者を対象に「オーガニックお弁当企画」を実施</li><li>有機農家とお弁当屋のマッチング</li><li>参加企業を募り、試作品を販売</li></ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"><li>具体的な企画内容の設計</li><li>パートナー事業者の選定</li><li>参加企業への周知活動 等</li></ul>

ワーキンググループを開催し、関係者と調整のうえ実施する。

企画案②	小さな拠点(集荷・販売)の形成
実施内容	<ul style="list-style-type: none"><li>既存の拠点を活用した有機農産物の集荷・販売を実施</li><li>生産者や消費者(小売店・個人)の巻き込みを図る</li><li>SNS等における情報発信</li></ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"><li>拠点候補のリストアップと選定</li><li>運営体制、物流システム等の検討</li><li>関係者への広報 等</li></ul>

地場もん屋にて【有機農産物コーナー】を設置し、販売量等の調査を行う。

(2) 企業等からの支援を募り、学校給食へ有機米を提供するスキームの検討

学校給食側からは、有機米給食の実施にあたっては、学校給食用米（富富富）の需要量の調整が富山県学校給食会と必要となるため、計画的な実施をお願いされている

## 6 その他広報

(1) 富山市有機農業広報動画作成業務委託【拡充】

市内の有機農業の取組みや有機農業の必要性を紹介する動画を作成し、有機米の学校給食実施時等に放映できる番組制作を委託するもの。

・・・ラックプロ（株） 代表取締役社長 福田敬嗣が受託

内容については別紙資料2-3のとおり

(2) 富山市役所の出前講座「有機農業の取組み拡大について」の実施

市広報番組での「有機農業の取り組み拡大」の実施

富山シティ FM 等地元メディアでの広報活動の実施

## 有機農業普及啓発動画の内容について（案）

### 1. 動画コンテンツの概要

目 的：富山市民に『有機農業』に関する情報を発信する  
ターゲット：小学生及び保護者  
コンテンツ数：4本（3分以内）  
→長い動画は視聴されない傾向があるため、短い動画を組み合わせる  
使用する際に連続で流すなど、使用目的に合わせた再生とする

### 2. 動画コンテンツの内容

#### （1）有機農業って何だろう？

- ・有機農業の定義（植物や動物、微生物の力を最大限に生かして食物を作る）
- ・目的（環境保全、生物多様性、資源循環、地球温暖化防止）

#### （2）有機農業によるお米づくりを見てみよう！

- ・米作りの流れ（土づくり～田植え～除草～稲刈り～乾燥調製～精米）
- ・有機農業に取組む農家インタビュー  
→有機農業に取組む思い、大変さ、大切さ等について

#### （3）富山市が考える未来

- ・有機農業の視点から考えるSDGs
- ・市の取り組み（オーガニックビレッジ宣言、有機米給食、その他）
- ・藤井市長インタビュー（豊かな自然を守りながら発展していく富山市など）  
→中山間地域の自然、棚田の景色、作業の映像を交えて
- ・有機米給食を食べた（または動画見た）児童のコメント

#### （4）有機農業普及動画ダイジェスト

- ・上記（1）～（3）の動画を60秒内でまとめたものを作成  
→広告等でも活用可能とする

### 3. その他

受託業者から、作業風景の撮影やインタビュー等の連絡がある場合があります。  
その際は、ご協力をお願いします。

資料2-4 令和7年度 有機農業取組拡大推進事業スケジュール

区分	令和7年																令和8年									
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
1 協議会関係																										
有機農業実施計画 進捗・評価・見直しの提言							◎ 第1回 5/22										◎ 第2回									
2 生産拡大関係																										
(1)実証は場設置 水稲2か所、えごま1か所	●	■ 地等調整	●																							
(2)有機栽培技術研修会	●				■ 講師等調整			●																		
(3)有機JAS認証等の取得勉強会											●			■ 講師等調整		●										
(4)有機JAS認証取得支援事業	●											■ 隨時募集														
(5)有機農業用機械導入支援(市)	●											■ 隨時募集														
(6)有機転換推進事業(国)	●											■ 隨時募集														
3 消費拡大関係																										
(1)市主催イベントへの出品と消費者アンケート調査								●		■ 対象商品選定等調整		●														
(2)有機米の学校給食		●							■ 数量、対象校等協議					●		●		■ アンケート回収・集計								
(3)富山えごま油飲用モニター調査				●				●	■ 対象者協議		●	●	●	■ 配布開始	●	●	●	■ モニター飲用		●	■ アンケート回収・集計					
4 加工品開発関係																										
有機米の加工品開発(日本酒)				●						●																
5 富山市CSA型サポート組織検討																										
(1)ワーキンググループの企画実施				●				●	●					●				●								
(2)企業と連携した有機米給食の実施				●																						
6 その他広報																										
(1)普及啓発動画作成(業務委託)	●	● 入札 開札								■ 隨時撮影・制作							● 給食 撮影			■ 動画制作						
(2)出前講座・HP等による広報活動	●																									
※有機産地づくり推進(国)関係	内示	● 申請 指令 前																				● 実績 報告				
※有機農業実施計画実行支援業務		● 入札 開札	● ➡ ◎																				● 業務 完了			
備考																		● ワン デー ジャッ クフェ スタ					● 有機 の日 学校 給食 利用			